

原発との共存は可能か？～フクシマからの問い～

フクシマ原発事故から約7年が経過し、早やそれは過去の出来事として忘れ去られようとしています。

しかしその惨禍は今も衰えず、被害の深刻さは度を深めています。その実情をしっかりと見つめ、被災地からの訴えに耳を傾け、それに基づき新しい歩みを紡ぎ出していくのでなければ、次の世代に荒廃した社会を引き継がせることになるでしょう。今私たちはあらためて、被災の現場に密着してきた二人の識者から提言を聴き、共に日本社会の進むべき道について考えたいと思います。

2018年 1月 7日(日)16時 ~ 8日(月・祝)16時

原発過酷事故を防げるか



吉岡 斉 (九州大学教授・福島原発事故政府事故調査委員)

2011年3月11日に福島原発事故が発生してから、7年近くが経過したが、破壊された原子炉を環境から隔離管理することは、今も実現されていない。ましてや解体撤去の見通しは立たない。原発過酷事故の再発防止のために、世界と日本では安全対策の強化が進められているが、それは原発過酷事故の再発防止には不十分である。また不幸にして原発過酷事故が起きたときの防災体制も貧弱なままである。この講義では、こうしたことを技術的視点を重視しつつ議論したい。

原発災害を通して見る現代科学技術の倫理問題



島菌 進 (上智大学大学院実践宗教学研究科教授・グリーンケア研究所長、
東京大学名誉教授)

福島原発災害を通して私たちは多くのことを学んできている。事故後の早い時期から、多くの人たちが原発の是非は倫理的視点を含めて考えるべきだと述べてきた。それはどういう意味だったのか。すでに多くの議論がなされてきてはいるが、事故後7年が近くこの段階であらためて考え直してみたい。人々がどのような難儀を被ってきたか、また、政府や専門家が被災者にどう対してきたかという事は、この問題を考える大きな手がかりとなるだろう。また、日本の、そして世界の宗教界が原発災害にどう向き合ってきたかについても考え直してみたい。宗教集団や宗教者がこの問題に取り組む姿勢から、原発の倫理的な難点を問い直すことにも意味があるだろう。さらに、原発災害がもたらした分断と差別による苦難から、どのような「回復」が展望されるのかについても水俣の「回復」の過程などを参考にしながら考えていきたい。

◇プログラム予定◇

《会場・宿泊》

関西セミナーハウス 修学院きらら山荘

京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL:075-711-2115 〈地図裏面〉

《参加費》

一般 14,000円、学生 5,000円 [宿泊3食込]

1月7日(日)

16:00 オリエンテーション

16:30 吉岡 さん 発題講演

18:00 夕食

19:00 質疑応答、はなしあい

21:00 自由懇談

1月8日(月)

7:00 静想の時

7:30 朝食

8:30 島菌 さん 発題講演

10:00 コーヒーブレイク

10:30 質疑応答、はなしあい

12:00 昼食

13:00 グループ討論

14:00 コーヒーブレイク

14:30 総合討論(まとめ)

16:00 終了

吉岡 齊 よしおか ひとし (九州大学教授・福島原発事故政府事故調査委員)

1953年富山県生まれ。1976年、東京大学理学部物理学科卒業。和歌山大学経済学部講師・助教授、九州大学教養部助教授などをへて、1994年より、九州大学大学院比較社会文化研究科（現在は研究院）教授。2010年4月より4年間、九州大学副学長を兼任。2011年から12年にかけて、政府の東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会（政府事故調）委員。原子力・エネルギー関係の政府審議会委員を、1997年の原子力委員会高速増殖炉懇談会を皮切りに20年にわたり歴任すると同時に、民間の脱原発専門家組織の原子力市民委員会座長をつとめている。現代科学技術史および科学技術政策を専攻。著書に『新版 原子力の社会史—その日本的展開』（朝日新聞出版、2011年）など多数。

島藺 進 しまぞの すすむ (上智大学大学院実践宗教学研究科教授・グリーンケア研究所長)

1977年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。筑波大学哲学思想学系研究員、東京外国語大学助手・助教授を経て、東京大学文学部（大学院人文社会系研究科）宗教学宗教学史学科教授。専攻は宗教学、近代日本宗教史、死生学。著書に『宗教学の名著30』（筑摩書房、2008年）、『国家神道と日本人』（岩波書店、2010年）、『日本人の死生観を読む』（朝日新聞出版、2012年）、『つくられた放射線「安全」論 科学が道を踏みはずすとき』（河出書房新社、2013年）、『日本仏教の社会倫理』（岩波書店、2013年）『倫理良書を読む 災後に生き方を見直す28冊』（弘文堂、2014年）、『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』（NHK出版 2016）、『宗教を物語でほく』（NHK出版 2016）、『宗教ってなんだろう』（平凡社、2017年）などがある。

- * 多数の方が参加して下さることを期待しております。参加して下さる方は、1月3日までに下の参加申込書をFaxでお送りください。電子メール、電話、ウェブサイトフォームでも受け付けます。
- * できるだけ全日程ご参加ください。やむを得ない場合は、部分参加でも結構です。部分参加の会費は事務局にお尋ね下さい。
- * 宿泊は、2～3名の相部屋が原則ですが、2,100円の追加料金でシングル利用もご準備できます。
- * お申込みに、電子メールか電話で受け付けのお知らせを致します。申込み後2～3日経っても返信が無い場合は、お電話などでお問い合わせ下さい。
- * 前日正午以後のキャンセル、変更には、キャンセル料金が発生します。

**公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター**

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
<http://www.academy-kansai.org>
 電話 075-711-2117
 FAX 075-701-5256
 電子メール office@academy-kansai.org
 運営委員長 小久保 正
 所長 榎本 栄次
 担当 都木 かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2017年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第6回 参加申込書

(フリガナ)		
名前	(男・女)	所属
住所	電話・携帯 () - FAX () -	
電子メール:	@	
◎参加形態	1. 全日程参加 2. 部分参加 ()から()まで	
◎宿泊室	1. 相部屋でよい 2. 個室希望 3. その他ご希望 ()	